

弘前市学校給食審議会 令和3年度第1回会議資料①

学校給食における弘前市の取り組みについて

令和3年8月25日
弘前市教育委員会学務健康課

1. 年間給食提供数について

	配送学校等	令和元年度提供食数	令和2年度提供食数
東部学校給食 センター (小学校12校)	城東小、福村小、豊田小、 堀越小、文京小、松原小、 千年小、大和沢小、東小、 時敏小、大成小、 第三大成小	650, 873食 東部計 650, 873食	675, 710食 東部計 675, 710食
西部学校給食 センター (小学校21校 中学校15校)	裾野小、自得小、小友小、 三和小、新和小、高杉小、 和徳小、船沢小、三省小、 致遠小、小沢小、青柳小、 東目屋小、城西小、北小、 西小、朝陽小、桔梗野小、 石川小、岩木小、相馬小 裾野中、新和中、船沢中、 北辰中、東目屋中、第一中、 東中、第二中、第三中、 南中、第四中、第五中、 石川中、津軽中、相馬中	小学校 642, 737食 中学校 655, 524食 西部計 1, 298, 261食	小学校 665, 535食 中学校 676, 232食 西部計 1, 341, 767食
センター計		1, 949, 134食	2, 017, 477食
自校式 (小学校1校 中学校1校)	常盤野小中学校	小学校 1, 399食 中学校 4, 703食 自校式計 6, 102食	小学校 2, 234食 中学校 4, 939食 自校式計 7, 173食
弘前市計		1, 955, 236食	2, 024, 650食

※食数には、学校職員の分も含まれています

2. 年間収支等（食材費関係）について

①令和2年度収支状況について（令和3年7月現在）

学校給食に要する経費については、給食を調理・運搬するための経費（給食センターの施設管理費、人件費等）は市が負担し、給食にかかる食材費は「学校給食費」として保護者に負担いただいております。

区 分	収入額 (学校給食費)	支出額 (食材費)	差 額 (市費負担)	備 考
東部学校給食センター	175,455,378	175,652,312	-196,934	差額の内、新型コロナウイルス感染症 関連等に要した負担 184,609円
西部学校給食センター	374,991,866	375,680,869	-689,003	差額の内、新型コロナウイルス感染症 関連等に要した負担 608,727円
常盤野小中学校	2,043,073	2,055,782	-12,709	
アレルギー対応食		800,662	-800,662	アレルギー対応食は全て市で負担
計	552,490,317	554,189,625	-1,699,308	

②給食費値上げによる取り組み・実績について

令和2年度は給食費値上げ（令和元年10月～）後、初めての年間を通しての給食提供となりましたが、値上げによる取り組み・実績は以下のとおりです。

- ・主菜品の重量の増加（10g程度の増量）
- ・食材産地の変更（国産→県産、国内加工→国産）
- ・個付きデザート等の回数の増加（年5回程度→月1回程度）
- ・味付けごはん等の回数の増加（月1回程度→月1～2回程度）
- ・人気メニュー「スパゲッティミートソース」の回数の増加（年1回→R3年度は年2回予定）
- ・生果物の提供（生パイナップル）
- ・食材費不足分の市費持ち出し額の抑制

3. 県販売促進緊急対策事業を活用した県産食材の使用について（令和2年度）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、在庫の滞留が深刻化した各種県産食材について、県事業を活用し、学校給食に提供しました。

使用月	使用食材	提供献立
9月	牛肉（A5ランク）	すき焼き風煮
10月	地鶏（青森シャモロック）	せんべい汁
11月	ほたてフライ	
12月	牛肉（A5ランク）	チンジャオロース
1月	地鶏（青森シャモロック）	せんべい汁
	ベビーほたて	ほたて汁
2月	牛肉（A5ランク）	ビーフシチュー

4. アレルギー対応食提供事業

食物アレルギーのある児童生徒が、他の児童生徒とできるだけ同じものを食べて、楽しく給食時間を過ごせるようにするため、対応食を提供します。

①提供者数及び対応アレルギー

年 月		対象者数	対応アレルギー数	対応（追加）アレルギー／その他
平成25年	4月	29	5	卵、乳・乳製品、そば、ピーナッツ、小麦
	9月	55	9	魚卵、甲殻類（えび・かに）、長いも・山いも、桃を追加
平成26年	1月	66	15	いか、たこ、いんげん、おくら、くるみ、キウイを追加
	4月	66	21	魚、さといも、パイナップル、アーモンド、生トマト、マンゴーを追加
	9月	85	21	
平成27年	1月	91	21	生トマト→トマトへ変更
	4月	79	22	ごまを追加
	8月	92	22	岩木小学校のセンター給食移行に伴う対象者増
	9月	109	22	
平成28年	1月	110	22	
	4月	103	22	
	9月	115	22	
平成29年	1月	120	22	
	4月	112	22	
	9月	130	22	
平成30年	1月	130	22	
	4月	115	22	
	9月	138	22	
平成31年	1月	139	22	
	4月	118	22	
令和元年	7月	140	22	これまで新入学児童の対応食は9月開始としていたが、平成31年4月入学児童から7月開始に前倒し。それに伴い、以降分の時期を早めたため、この年は4回申請を受付けしている。
	12月	145	22	
令和2年	4月	131	22	
	7月	161	22	
	12月	165	22	
令和3年	4月	143	22	
	7月	179	22	

②アレルギー対応食提供数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成25年度	143	207	192	82	7	199	214	200	191	159	161	151	1,906
平成26年度	132	284	261	168	48	291	236	258	343	318	382	210	2,931
平成27年度	258	283	363	218	108	350	369	409	320	264	461	329	3,732
平成28年度	253	297	404	241	118	412	359	493	320	250	365	264	3,776
平成29年度	187	221	279	226	69	357	342	426	322	237	392	253	3,311
平成30年度	216	196	178	179	112	278	529	492	429	340	447	316	3,712
令和元年度	323	382	462	468	126	505	533	644	427	474	563	20	4,927
令和2年度	380	321	627	616	147	484	334	624	538	417	578	407	5,473

③対応アレルギー（全22種類）

卵、乳、小麦、そば、ピーナッツ、甲殻類（えび・かに）、魚卵（たらこ）、長いも・やまいも、さといも、もも、いか、たこ、いんげん、おくら、くるみ、魚（全般・青魚・練物製品・加工品）、キウイフルーツ、マンゴー、パイナップル、トマト、アーモンド、ごま



5. 多子家族学校給食費助成事業

多子家族の経済的負担を軽減するため、小・中学生が3人以上いる世帯へ、3人目以降の学校給食費を半額助成します（平成29年度より実施）

○条件（以下の項目全てを満たしていること）

- ・保護者等が弘前市に住所を有すること。
- ・弘前市子ども医療費受給資格証又は弘前市ひとり親家庭等医療費受給資格証を有していること。
- ・全てのきょうだいの学校給食費に滞納が無いこと。
- ・他の制度ですでに学校給食費に係る給付等を受けていないこと。

○対象児童生徒数：150人

○令和2年度実績

申請者数： 134人（令和元年度：111人）

申請結果： 認定 133人（令和元年度：109人）

却下 1人（令和元年度：2人）

6. 地産地消の取組について

学校給食において地産地消を推進
使用材料の産地について **弘前産→青森県産→国産** の順に検討

○ 県内産食材の利用状況（令和２年度）

品 名	利 用 率
米（つがるロマン）	100% (弘前産)
じゃがいも	
プチトマト	
りんご（生食・カット）	
味噌	
パン（ゆきちから）	100% (県産)
牛乳	
りんごジュース	
肉	
長芋	
にんにく	
干し菊	
ほたて	
かぼちゃ	70～90%程度 (県産)
ごぼう（ささがき、乱切り、千切り）	

○ 令和２年度の取り組み

- ・弘前市内に大規模な農場を持つ株式会社黄金崎農場と「じゃがいも」の年間供給契約
- ・生食用りんごに農家が自家で消費するような裾ものりんごを活用
- ・旧西部学校給食センターを活用した業者のカットりんごを使用
- ・弘前産りんごを使用したゼリーを給食に提供
- ・６月、１１月に「ふるさと産品給食の日」を設け、県産食材を多く使用

○ 地産地消の推移

年 度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
県産食材使用率	69.8%	69.8%	68.6%	67.3%	65.0%